

2015 三重と福島のさらなる交流を願って

「フクシマの復興未来を拓く絆」代表 我彦 武
(元福島県福島市立福島第四中学校 校長)

あの東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所事故から4年が過ぎ、5年目の春を迎えました。県内の避難者は、今なお12万人(県外に約5万人)にも上り、原発周辺の住民は、今以て住み慣れたふるさとに戻ることはできません。戻れる日は何時になるのかも予測不能です。廃炉になるまで30年とも40年先になるかもしれません。一部の地区では避難指示が解除されるなど、住民の帰還が始まったところもありますが、除染の問題や職場、生活環境などを考えるとなかなか難しい問題が数多く噴出し、復興の道は険しいとしか言わざるを得ません。

そんな最中、震災の翌年2012年、三重県松阪市民の「福島の子どもたちを元気にしよう！」という熱い想いで、「松阪祇園まつり」に招待されました。この年は三重県松阪市立中部中学校との交流もあり、子どもたちにとっては一生忘れることのできない思い出となりました。

福島の子どもたちは、今まで胸の中につかえていた思いを、松阪の子どもたちに伝え、福島のことを理解され、共有され、そして互いに寄り添おうとする子どもたちの純真な言葉や姿を見ることができました。それが子どもたちにも周りの大人たちにも伝わり大きな感動となりました。参加した子どもが感想文で、『絆』ということばの意味は知っていましたが、『本当の絆とは、みんなで一つになって笑顔で何かを成し遂げたときに生まれる』ということを体験できました。」と書いてきました。

これを契機に、生徒会同士で交流や秋には、松阪の子どもたちが福島の「飯坂けんかまつり」に参加するなど、交流の輪がひろがり、「未来への絆」が更に強いものとなりました。

その翌年には、第四中学校の学区の子どもたちとの交流、昨年は福島県川俣町立川俣小学校や福島県福島市立野田中学校の子どもたちも参加し、松阪でも新たに松阪市立松江小学校など交流に参加する学校が増え、広瀬隆さんのライブコンサート、松阪鳥焼き肉隊、松阪の飲食店(牛銀、とこしえ、つぼ八)、松阪市の幼小中の学校現場の教職員の皆さんなど、多くのご協力や温かいご支援を得て、交流の輪が大きく広がってきました。それだけ感動も大きく感謝の念でいっぱいです。

今年度は、この輪が更に大きく成長して、全国的に有名な「高校生レストラン『まごの店』」がリーダー研修の会場となり、多くの子どもたちが新たな「子ども交流リーダー研修」を通して、「絆」が深まり、未来へ繋がることを祈念しています。

チョーサヤ三重！チョーサヤ福島！